

【裏表紙・連載記事①】

(タイトル) 若者のチカラでつながる農林水産業

※良いタイトルがあれば御提案ください。

(問) 水産海浜課 (電話) 22-9227

(リード文)

自然の恵みがあふれる小田原。そんな小田原で多くの若者が活躍する農林水産業の現場をご紹介します。

(見出し) 若者のチカラ～水産業編～

※良いタイトルがあれば御提案ください。

(プロフィール) 小田原魚市場 鮮魚部遠海課係長 大津 一馬さん ※添付挿入

小田原魚市場の若手ホープ職員。貝類などの仕入れや、セリ後の対応など広く業務をこなす。食の台所、魚市場を支える職員として、汗をかき、日々努力を積み重ねる。

(小見出し) 先輩の背中を追って日々奮闘

インターンシップの一環で、小田原みなとまつりのイベントスタッフとして働いた経験があり、就職活動の際、その時を思い出しました。自分の性格的に、現場で動き回る仕事が合っているのではないかと思います、今の仕事を選びました。

市場の仕事は、想像以上に朝が早く驚きましたし、最初は小田原の魚市場だけに目を向ければいいのかと思っていましたが、実際には横浜や豊洲など他の市場の動きにも目を配らないといけないことに気付きました。市場には尊敬できる人がたくさんいますが、今は目の前の仕事に必死で、そんな姿に自分になれるのか、不安になることもあります。競り場は臨機応変な対応が求められるので、うまく場をさばけるように、経験を積みながら日々奮闘しています。

今後、小田原の市場には、もっと多くの方が足を運んでくれて、毎日満杯になるくらいにぎわってほしいですね。ここでおいしい魚を楽しんでくれる人が増えたらうれしいです。